

施策評価シート(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 7 月 8 日

施策No.	15	施策名	市街地整備の推進					
主管課名	地域整備課	主管課長名	増田伸之					
関係課名	総合政策課(企画振興G)							

施策の目的 【対象】	市街地 ※市街地とは、 ①月夜地区は用途区域 ②水上地区はまちなみ環境整備 事業で指定している湯原・鹿野 沢・小日向のそれぞれ一部のエ リア ③人口については、月夜野地区 (後閑、真政、町組)水上地区(鹿 野沢、湯原)の行政区の人口とす る。	対象指標名	単位	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 見込み	23年度 見込み
		①市街地面積	ha	278.0	278.0	278.0	324.4		
		②都市計画道路(計画延長)	km	15.68	15.68	15.68	14.96		
		③市街地人口	人	6,846	6,649	6,587	6,529		

施策の目的 【意図】	拠点機能が充実した市街地を形 成する。 ※拠点機能とは、金融機関・病 院・駅・郵便局・高速IC・駐車場・ 改良済み都市計画道路(延長)・ 学校・幼保施設・飲食店・都市公 園・官公庁をいう。	成果指標名	単位	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標
		①後閑駅周辺の拠点 機能が充実していると 感じる町民の割合	%	—	—	—	—		
		②上毛高原駅周辺の 拠点機能が充実してい ると感じる町民の割合	%	—	—	—	—		
		③水上駅周辺の拠点 機能が充実していると 感じる町民の割合	%	—	—	—	—		
成果指標の 把握方法と 算定式等	①②③町民アンケートで把握 ※ 平成23年上半年期に実施する調 査で結果数値を22年度数値で 使用する。 ④実数を把握する。 ※改良済 み都市計画道路(km)/都市計画 道路(計画延長:km) ⑤実数を把握する。 ※町が定 義する市街地のエリア人口を算 出する。 ※人口については、月 夜野地区(後閑、真政、町組)水 上地区(鹿野沢、湯原)の行政区 の人口とする。	④都市計画道路の改 良率	%	0.13	0.13	0.13	0.14		
		⑤市街地人口の割合	%	28.88	28.72	28.96	29.12		

成果指標設 定の考え方	①②③は市街地の拠点機能が充実していると感じている町民の割合を把握することで、拠点機能の充実度を計る。 ④は拠点機能の一つである都市計画道路の改良率は、直接機能強化につながる。 ⑤は市街地エリアの人口を把握することで、機能強化の充実度を計る。(町の特殊性を考慮した指標設定といえる。 ※特殊性とは、若者の町外への流出が多いという現状。)
----------------	--

施策成果向 上にむけた 住民と行政と の役割分担	<p>1)住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)</p> <p>①道路・区画整理事業に対する地権者としての協力をしてもらう。 ②各種規制を理解し遵守してもらう。</p> <p>2)行政の役割 (町がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと)</p> <p><町> ①整備計画を策定し対象地域と合意形成を図る。 ②都市計画道路等の基盤整備を進める。</p> <p><国・県> ①基盤整備への財政的支援をする。(交付金・補助金) ②各種許認可申請に対し審査・指導する。</p>
-----------------------------------	---

21年度の 評価結果	<p>1. 施策の成果水準とその背景・要因</p> <p>1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？） ① 成果指標における都市計画道路の改良率については、工事着手に向けての準備（測量設計、用地買収など）を平成20年度から21年度にかけて実施しているため、数値化されない。道路整備の完了予定である平成25年度末には数値が向上する見込みである。 ② 市街地人口については減少傾向にある。要因は自然減が進み社会増が見られないと考えられる。 ③ 駅（後閑、上毛高原、水上）周辺の拠点機能が充実していると感じている町民アンケートについては平成23年度から実施する。</p> <p>2) 他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？） ① 都市計画道路の改良率は、県内34市町村中27位である。 ② 県内人口は減少期に入っており、一部の市町村を除き人口減少となっている。人口減少であっても市街地へ集約される地域と、市街地の空洞化が進んでいる地域に分けられ、本町においては、人口減少は顕著であるものの、市街地人口の減少はゆるやかであり、市街地集約型と考えられる。</p> <p>3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか）、その他の特徴は？ ① 後閑駅周辺の市街地整備（まち交）を進めてほしいという意見は多く、住民の期待水準は高いと思われるが、必要性を問う声もあり判断が分かれるところである。 ② 上毛高原駅周辺は、終日駐車車両の排除や駐車場の整備を求める声が高い。 ③ 水上駅周辺は、駅前広場の整備や廃業した旅館の撤去を求める声が高い。</p>
	<p>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括</p> <p>1) 平成20年度よりまちづくり交付金事業で、都市計画道路真政悪戸線の改良工事に着手し、用地買収等を進めている。本年度は橋梁下部工に着手した。 2) 平成21年度より道整備交付金事業で都市計画道路悪戸矢瀬線の改良工事に着手した。道路の一部は矢瀬蟹杵土地区画整理事業区域内であるため、区画整理事業の完成予定である平成22年度末に部分共用開始を行う予定である。 3) 上毛高原駅前広場周辺活性化検討会が、県、JR東日本、関越交通(株)、町の関係者により組織され、2回の委員会を開催し、駅周辺のありかたが議論された。 4) 地域活性化・公共投資臨時交付金、きめ細かな臨時交付金により、老朽化した都市公園の遊具や施設の改修を行った。 5) 水上駅前広場について、沼田土木事務所水上事業により、歩行者動線の無散水化整備が進められている。</p>
	<p>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</p> <p>1) 本町の市街地に該当する地域は、月夜野都市計画の用途地域（後閑、真庭、政所、月夜野、下牧の一部）、水上駅周辺（湯原、鹿野沢）、国道17号沿線（新巻・布施・猿ヶ京温泉の一部）と考えられる。町が市街地と定義するエリアの拠点機能充実度を町民アンケートで把握する。 2) 市街地整備に必要な道路や公園等の整備を進めるため区画整理事業を進める必要がある。区画整理により秩序ある市街地整備が可能となるが、事業費も大きくなり、町も応分の負担を覚悟しなければならない。 3) 駅は拠点機能に欠かせない施設であり、整備にあたっては、長期的な視野のもとに進めていく必要がある。 4) 最大の課題は財源の確保と地権者の理解を得るための努力と考える。</p>